

山東庵京山譯
 稗ま史こ水え滄え傳ん
 歌川國芳画
 上卷 三編



^ 13
 3812
 2



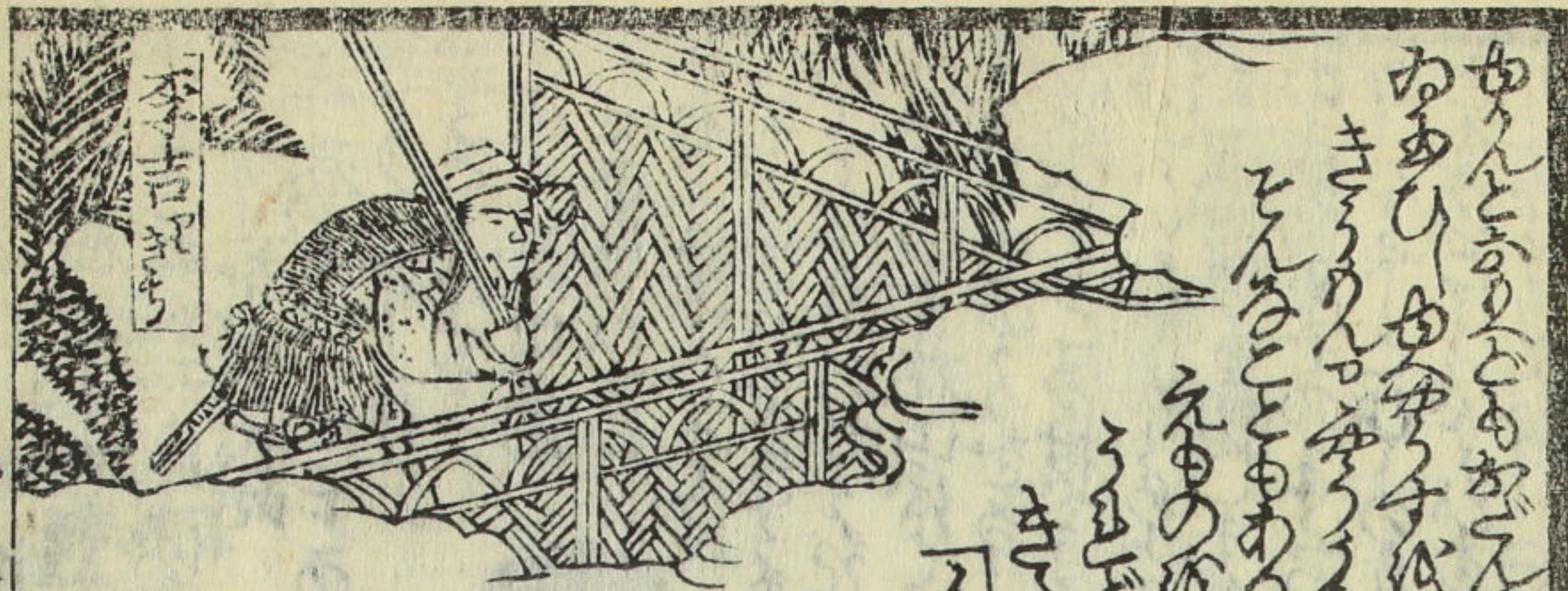
門 へ 13
812
巻 2

山東庵京山譯 文政丑春 稗史水滸傳二編 歌川國芳画 上卷

稗史水滸傳二編
 文政丑春
 歌川國芳画 上卷
 稗史水滸傳二編
 文政丑春
 歌川國芳画 上卷



上巻の... 文政丑春... 稗史水滸傳二編... 歌川國芳画 上卷



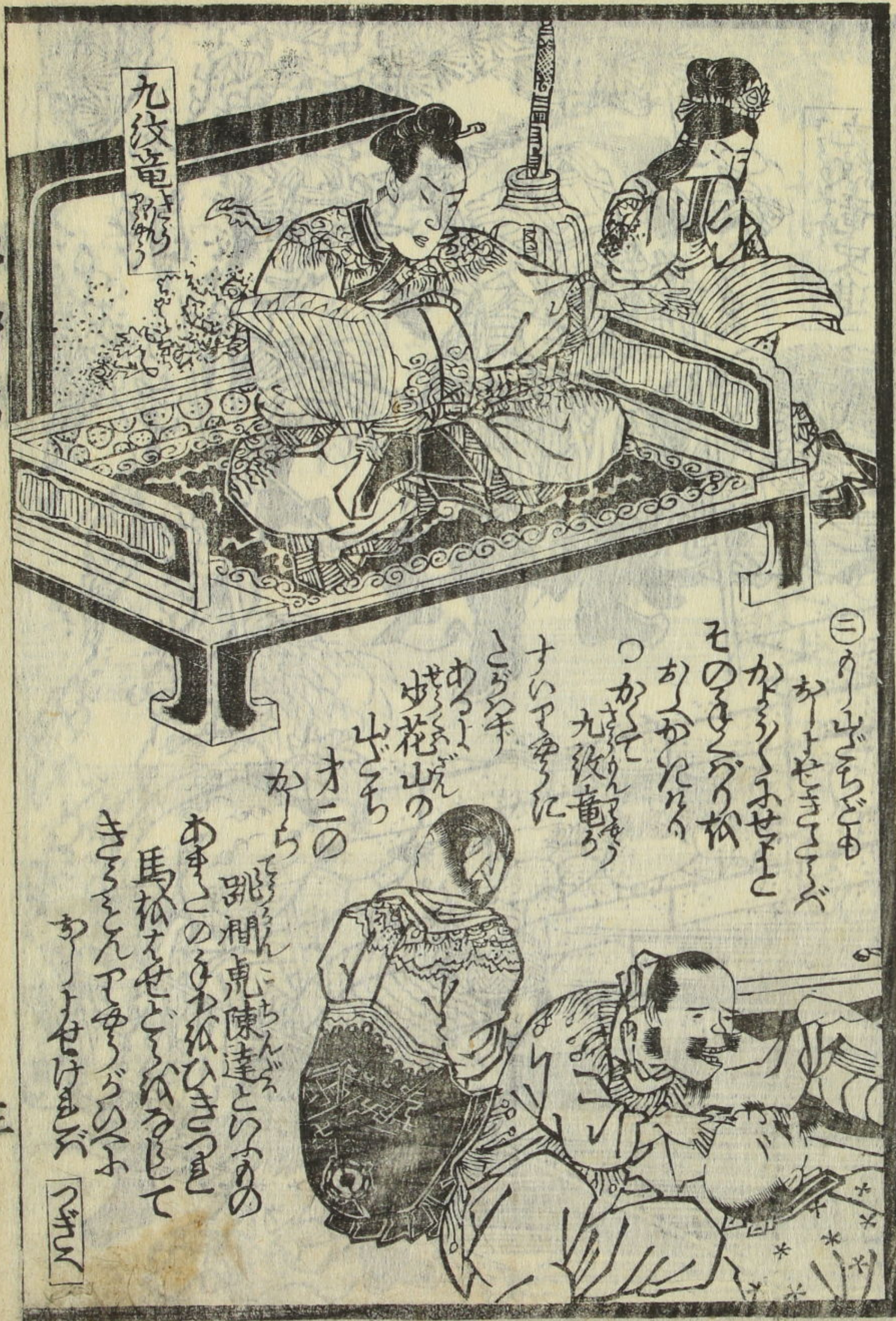
ちうとまのいごもあてなごも
 おあひりゆきうすはるかひひさう
 キミのいごをうらまはすはくいなさる
 そんごともあはれんぢはねぐ
 えもの涙のちまひりてはまふ
 ちうとまのいごもあてなごも
 キミのいごをうらまはすはくいなさる
 そんごともあはれんぢはねぐ
 えもの涙のちまひりてはまふ
 ちうとまのいごもあてなごも
 キミのいごをうらまはすはくいなさる
 そんごともあはれんぢはねぐ
 えもの涙のちまひりてはまふ



ちうとま
 の山ふ三人の山ふら
 わまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ
 こまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ
 の山ふ三人の山ふら
 わまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ
 こまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ



ちうとま
 の山ふ三人の山ふら
 わまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ
 こまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ
 の山ふ三人の山ふら
 わまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ
 こまのいごもあはれ
 ちうとまのいごもあはれ



九紋竜

①のしんごお
かーとせきしんご
かろしんごせしん
そのまごうか
かかたなる
のかた
九紋竜
すいりやうに
とろんち
あーい
せ花山の
よそ
オニの
から

跳ね虎陳達といふもの
馬松をせとらなるじて
きこんて争うらふ
あーとせきしんご

あーとせきしんご



つぎに 神機軍師朱武と
十身一狐 跳ね虎陳達と
中房三を白蛇と
楊春と平いとらとの
むろくかろの
がらとらのさす
とのことばもえん
あつとこのひ
すてもたらうもく
とちさうけやきまらんまきん
ゆびひれのせまふた
かけらのゆ花山ゆらうふ
ん争りていなりをるいあは
山賤りこの材きこも
るいあはくかめとらて
官麻(すこす)まが
あはあそあまごうと
るあまごうとむのめ
ごものさしんごあ
あふりてねー①

あふりてねー



ついで
九紋竜
すこしも
さかす
あわて
ことなる
あいのひき
本依いせ
竹のわら
ゆれけむむの中ふあいつ
あせ二三百人の百せども
竹あすまきころあひのく
ひのさけて九めん中うら
門せんあえせろけむ
九めんあう門ひひのて
うていで山をどもな
中につんでこころひける
山ぞのから陳連九紋竜と

山賊陳連

水



九紋竜史進

水

陳達と



④ ちやうど
ちやうど
いふやう
これゆゑ
山つらの
とよこめ
くま

⑤ ちやうど
ちやうど
いふやう
これゆゑ
山つらの
とよこめ
くま

⑥ ちやうど
ちやうど
いふやう
これゆゑ
山つらの
とよこめ
くま



九紋竜

① ちやうど
ちやうど
いふやう
これゆゑ
山つらの
とよこめ
くま

② ちやうど
ちやうど
いふやう
これゆゑ
山つらの
とよこめ
くま

③ ちやうど
ちやうど
いふやう
これゆゑ
山つらの
とよこめ
くま

山賊朱武

○まきまきの下やけはこゝろのから
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ



山賊朱武

山賊揚春



○史進の病
とろかき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ

○まきまきの下やけはこゝろのから
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ
たふちとろき九紋龍史進をじて
極勇のりろりのあやまきりれろ



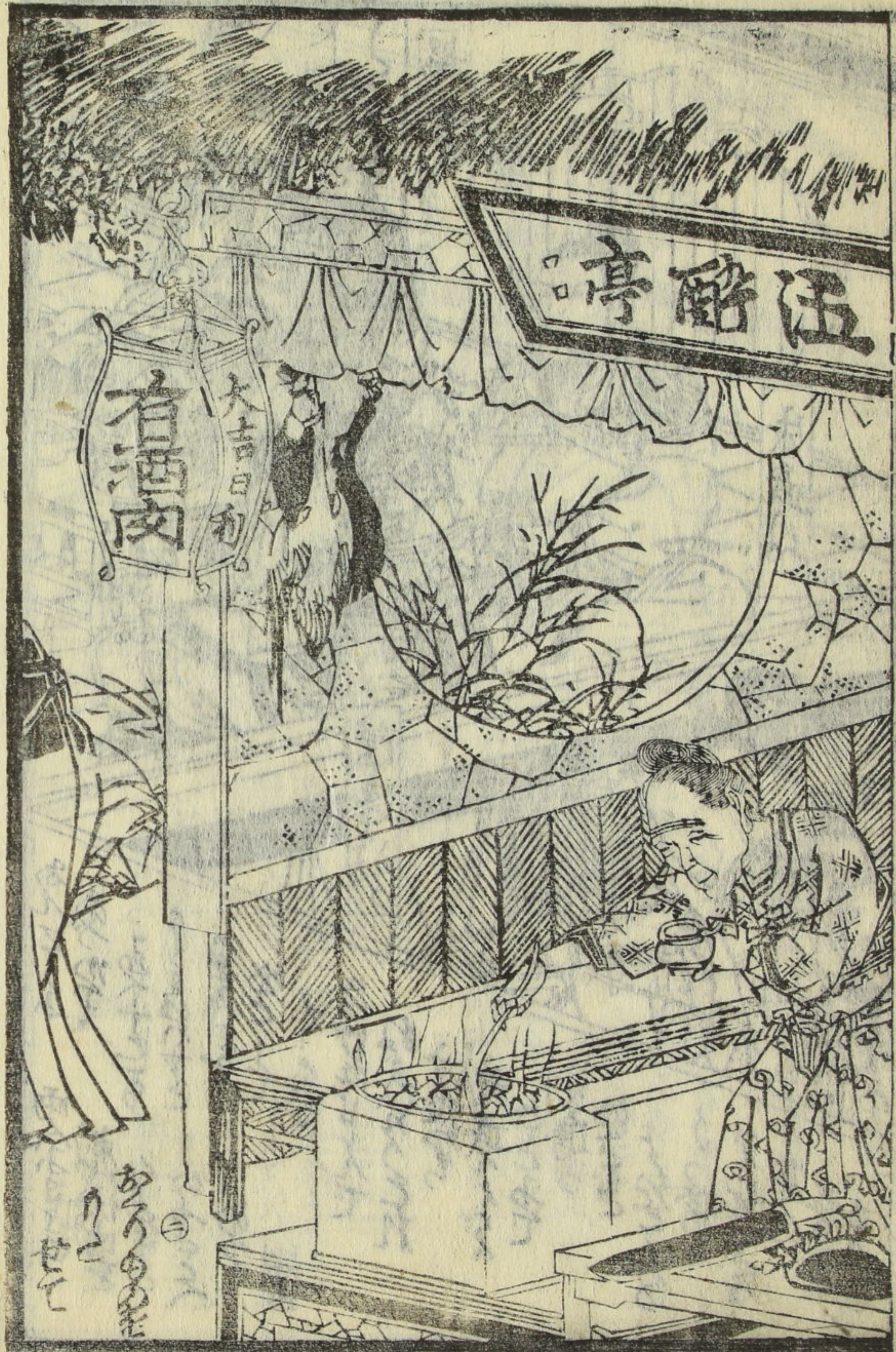
二人の
 から
 かね
 康達を
 手
 と
 のつ
 のの
 か
 さ
 ま
 を
 て
 酒
 の
 う

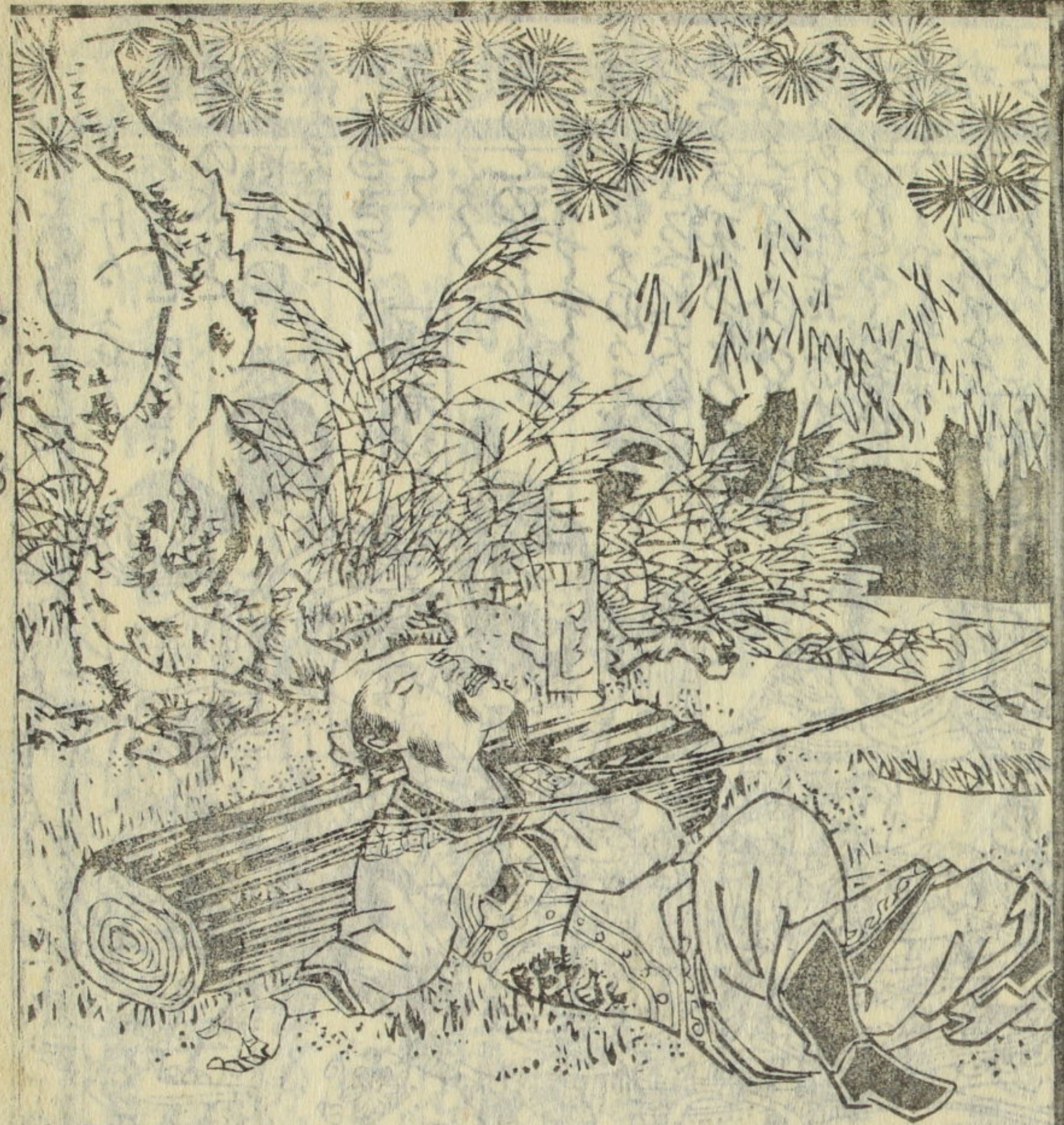


村の
 せ
 の
 二
 人
 の
 小
 を
 成
 果
 二
 人
 の
 小
 を
 成
 果
 二
 人
 の
 小
 を
 成
 果

朱式

陳





三年

山なでり
けらちあとののこ
酒のくせにて
志まつたのこ
くみ形を
そちねえて
あまの酒をせに
まてりてのの
中へのまけを
十分に多しを
まて酒をね
てちいせめらこち
まらちたけ
くみかまひつみ
まてのひんどうぐ
ひひ形がうま
えりきさるけらち
まむしてたのこ
まてのひんどうぐ
まてのひんどうぐ
まてのひんどうぐ

松の



つぎか
このとちも
ひらりけん
九月
三人の
とひひむ
十五夜
月見
大なる
わがて
王田
さの
けの
夜中
お花
のやせ

特守吉

日月
とひひむ
あて
ひひむ
三人の
大なる
あのを
酒
かた
金子
一
わ
書
あ
王田
は
い

松壽堂藏版略目録

清 家 改 撰 消 息 注 集	女 形 文 章	古 抄 探	高 月 賣 後 末	早 学 用 文 章	實 語 教 童 子 教	當 時 所 用 手 習 帖
--------------------------------------	------------------	-------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------	---------------------------------



そのゆゑに
この水が
松の風秋の
ゆけたまそ
子のこく
すくすく
形このとた
さうあふや
糸の文に大
りてきつた
あるふの
さあふの
松山の
ことり
かる
たれ

揚春

大進

未武

陳達

奥州松島八景之圖 唐紙一枚摺

前北齋為一老人筆

加目位算早割塵劫記 全一冊

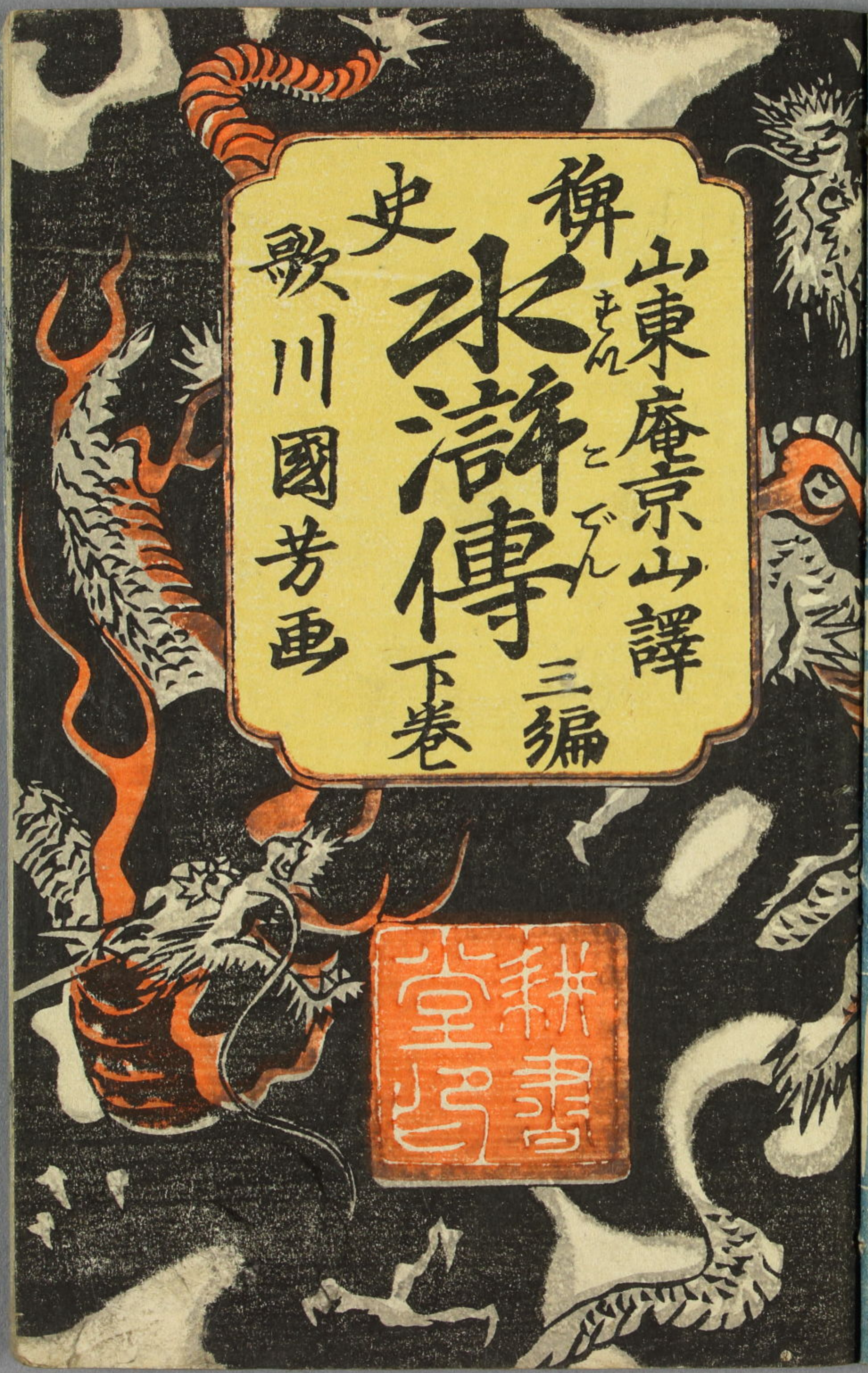
繪本平家物語 松亭金水譯 歌川國直画

分間御江戸圖 一枚摺

松壽年代記 両面摺

稗まじ 山東庵京山譯
 史し 水滸傳すいぽん 三編
 下卷
 歌川國芳画

耕書堂
 石印



山東庵京山譯 文政丑春

稗史水滸傳三編

歌川國芳画 下卷



目こころやあつめ人も酒ふ
るひてはこころをさかす
こころも酒のそけすあり
んよそもゆめれきひとを
とつてひたあこころこころ
こころ山のさうとやわら
あつとをかこけりつて
あつとをこころけりつて
ども王四八死人の
こころおりのけと死
王四うとびに
うけこころさかす
あつとをこころけり
さかすこころけり
本まき月うけ
うけこころ
たちきりつて
あつとをこころ
王四あつとの
こころけりつて

3 将



つぎかめさのふ松さうろ
又るにさのせん
少花山よて
ゆひころすまひ
のこが孫と
つろのあよ
うんと仮
さうりこり
ゆごーぬ
おま言ひひこりや
多にけくまつふんを
おこころにやあ
てつやの
火あさしに
てじてかの
をかき仮
るるに
かやうどの
ことねま
文字はうそ



つぎとがた
さよあか糸
しからえに
あやうる
史太郎の
りよとやに
さる三人の丹朱の
ととと派まきえり
本吉言はるかた
母のるれはま
こころにあら
ゆひのやま
おま言ひひこりや
多にけくまつふんを
おこころにやあ
てつやの
火あさしに
てじてかの
をかき仮
るるに
かやうどの
ことねま
文字はうそ

史進
玉四郎
かて時
けま玉四郎
秋の夜
ひんげ
酒を
大に
とた

三日月を抜入れてしまふ
 入道はこれをもてあはれも
 あつたことなるかたきとに
 かわりなりひたりとに
 ひひたりいひたりとに
 さかひかきとに
 おもひなりこれなり
 こころをたておとせし
 めの形はらねたとも
 あれもかきとに
 山とちとに
 名もあや
 どんぶりのあてなり
 ありはさしものあや
 ありのあやとに
 ありともひつてに
 おとしとに
 さうにあはれ
 手さしとせん
 かこおと



史進

身はかこして
 さきあはれなり
 こころきこ
 九りんやあや
 王四があや
 あはれなり
 いふなり
 いまこねも
 ありん
 とし大
 のまよふ
 むらさか
 ねひしあはれなり
 うらあま面かき
 きこるはきこるなり
 ろふふふふふふ
 ろがきききききき
 こころをたておとせし
 めの形はらねたとも
 あれもかきとに
 山とちとに
 名もあや
 どんぶりのあてなり
 ありはさしものあや
 ありのあやとに
 ありともひつてに
 おとしとに
 さうにあはれ
 手さしとせん
 かこおと



水滸傳



史進

陳達

朱武

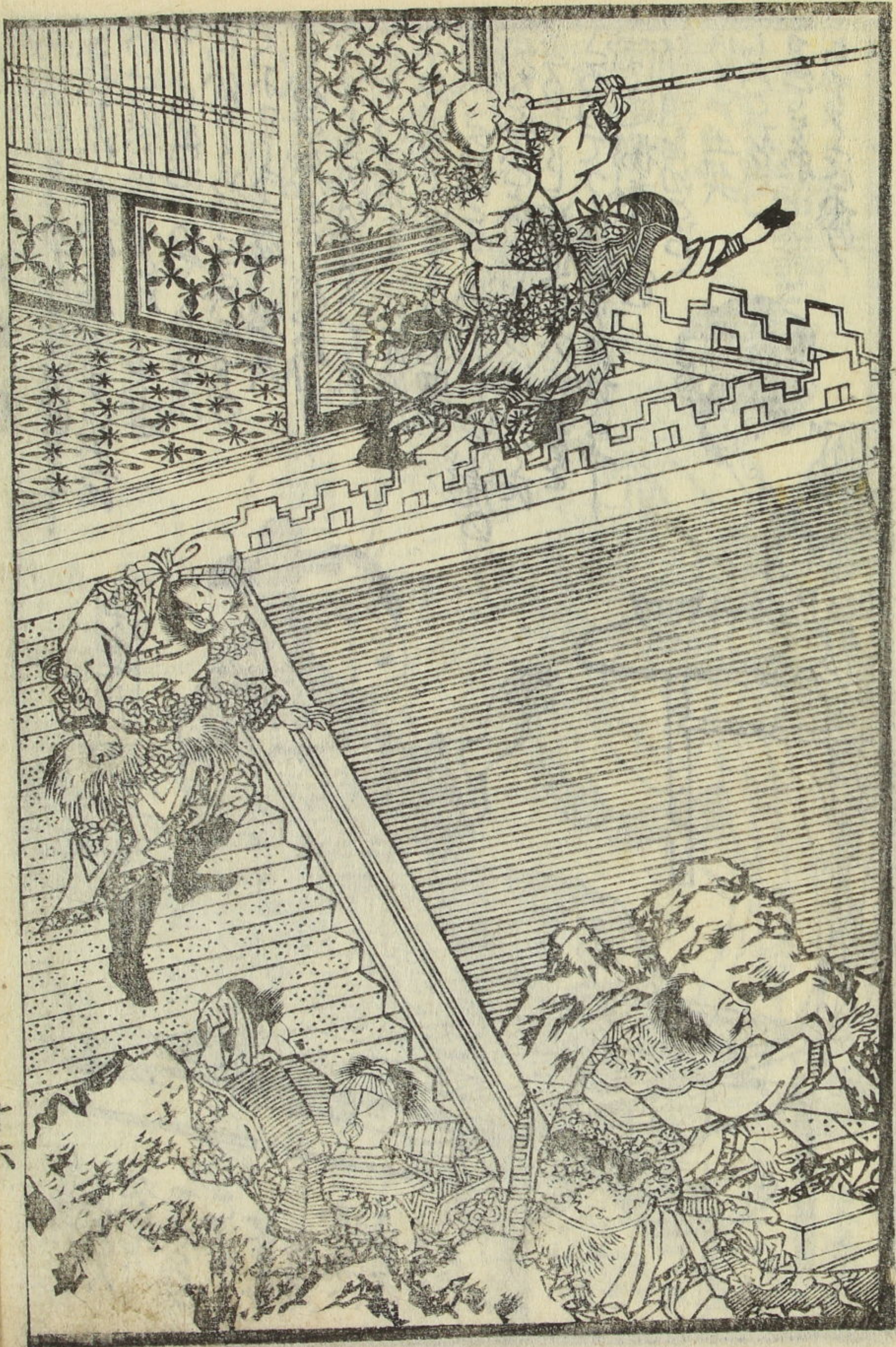
史進は、
 陳達、
 朱武、
 三人のものを
 馬をわづる史進が
 山海の
 史進をわづる
 三人のものを
 大に
 史進をわづる
 三人のものを
 大に
 史進をわづる
 三人のものを
 大に

史進

揚春



史進は、
 揚春、
 三人のものを
 馬をわづる史進が
 山海の
 史進をわづる
 三人のものを
 大に
 史進をわづる
 三人のものを
 大に



お花山



〇 かくもてりたむらさきまの
 せうごんえんまじとたぬかやまの
 幸きいひのてしはまの史進太夫
 いのちをいふおのの言を
 ありてはまの言をいふ
 けんやまの言をいふ
 うちごんひの言をいふ
 かりうちの言をいふ
 うまの言をいふ
 とはいふ言をいふ
 せうごんえんまじと
 大ぬまの言をいふ
 このことをいふ
 おんごんえんまじと
 〇 かくもてりたむらさきまの
 せうごんえんまじとたぬかやまの
 幸きいひのてしはまの史進太夫
 いのちをいふおのの言を
 ありてはまの言をいふ
 けんやまの言をいふ
 うちごんひの言をいふ
 かりうちの言をいふ
 うまの言をいふ
 とはいふ言をいふ
 せうごんえんまじと
 大ぬまの言をいふ
 このことをいふ
 おんごんえんまじと

〇 かくもてりたむらさきまの
 せうごんえんまじとたぬかやまの
 幸きいひのてしはまの史進太夫
 いのちをいふおのの言を
 ありてはまの言をいふ
 けんやまの言をいふ
 うちごんひの言をいふ
 かりうちの言をいふ
 うまの言をいふ
 とはいふ言をいふ
 せうごんえんまじと
 大ぬまの言をいふ
 このことをいふ
 おんごんえんまじと

つぎいすゝめははなこのはりこ
 西のたぬに史公が手記をた
 ひてはたのまのり史進
 くらぬぬのりこをん
 らぬぬのりこ天下の
 人不可つるなり死るべ
 りるともいささかおれ
 のたすえいひきつてい
 めといさたよきことん
 三人ひらひらさきも四人
 きつたをさるるてつての虎の
 先ちあてて共共らぬさんた
 きりちりし史進のりまを
 ぶつてつらつらに切ふ
 陳達揚春二人の
 都頭を切と
 けき共共
 らんとね
 足てま
 ちあつたみ



史進

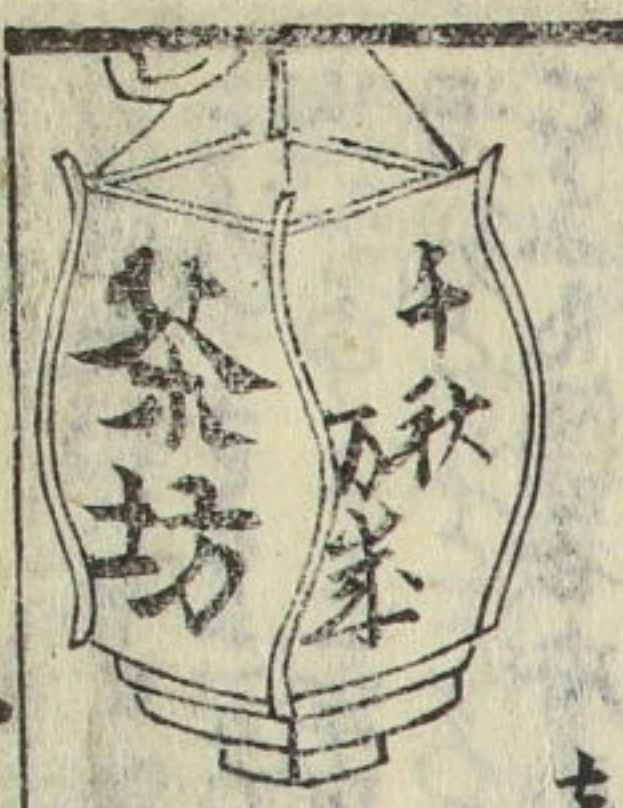
史進
 きつた
 けき共共
 らんとね
 足てま
 ちあつたみ

つぎいすゝめははなこのはりこ
 西のたぬに史公が手記をた
 ひてはたのまのり史進
 くらぬぬのりこをん
 らぬぬのりこ天下の
 人不可つるなり死るべ
 りるともいささかおれ
 のたすえいひきつてい
 めといさたよきことん
 三人ひらひらさきも四人
 きつたをさるるてつての虎の
 先ちあてて共共らぬさんた
 きりちりし史進のりまを
 ぶつてつらつらに切ふ
 陳達揚春二人の
 都頭を切と
 けき共共
 らんとね
 足てま
 ちあつたみ



魯達

史進
 きつた
 けき共共
 らんとね
 足てま
 ちあつたみ



茶坊
 秋
 茶

史進魯達もこれ故に二人の勇技を
つらひて予りをうらむるはもの史進が故の
師匠も虎虎将軍史進のものを
史進すも一別りのもの
魯達もひたひたのものを
かきまて三人ひたひた
かきまて三人ひたひた

史進
魯達
酒肴をのひ
つげ三人
さかづきを
めづして
たふ
きま
この
おや



金老

史進
魯達
酒肴をのひ
つげ三人
さかづきを
めづして
たふ
きま
この
おや

史進魯達もこれ故に二人の勇技を
つらひて予りをうらむるはもの史進が故の
師匠も虎虎将軍史進のものを
史進すも一別りのもの
魯達もひたひたのものを
かきまて三人ひたひた
かきまて三人ひたひた



李忠

魯達

史進魯達もこれ故に二人の勇技を
つらひて予りをうらむるはもの史進が故の
師匠も虎虎将軍史進のものを
史進すも一別りのもの
魯達もひたひたのものを
かきまて三人ひたひた
かきまて三人ひたひた

松壽堂藏販略目録

美艶仙女香
黒油美玄香
一色四十八文
吸才氏精製

三芝居
役者
聲色早合点
似顔画八國貞画

徳井作
仙果作
國芳画

地本錦繪問屋
大黒屋平吉

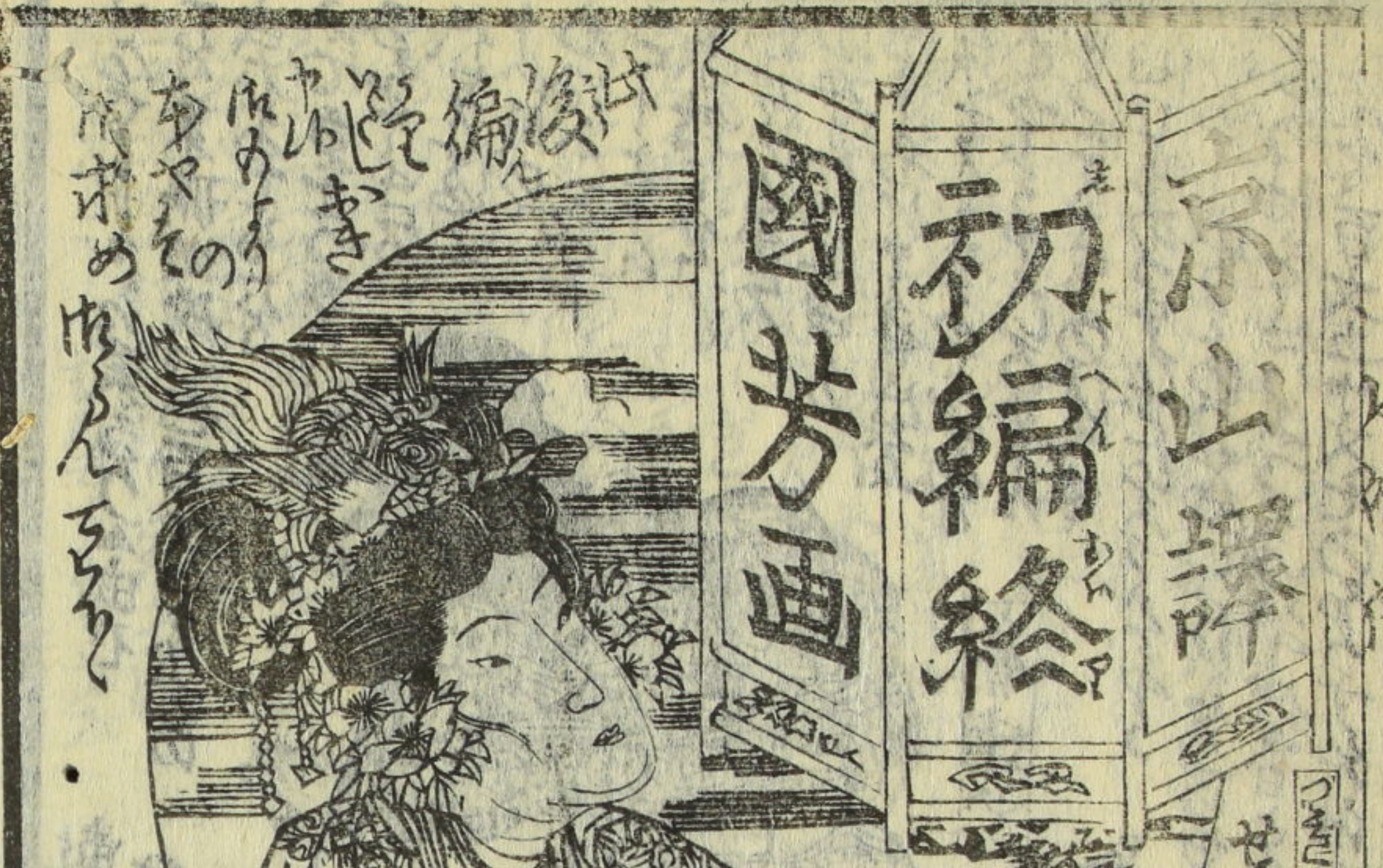
天保大雜書
方々曆

此書の書の人間一冊を生れ集り
神仏の事や家老と家老の扱を
男女相性之相方年曆の事

金銀傳
世の當世流行の人情と趣

風俗金魚傳
歌川國貞画

魚子の老か天か通ト一か思苦か
志の如くははひふ果と
うの金の事と表し示はるる
編をもち込込は板は



金の子の口か...
せんか...
この金...
十六...
本は...
ゆ...
め...

新 華 新 華 新
新 華 新 華 新
新 華 新 華 新
新 華 新 華 新
新 華 新 華 新